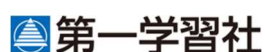


大学入学共通テストについて

広島市立広島工業高等学校教諭 河村 新吾



① 大学入学共通テスト(共通テスト)について

2021 年 1 月、大学入試センター試験(センター試験)に代わり、大学入学共通テスト(共通テスト)が初めて実施された。大学教育の基礎力として、「知識・技能」や「思考力、判断力、表現力等」が必要なところ、従来のセンター試験では知識偏重ではないかという批判があり、学習指導要領に定められた資質・能力を踏まえた上で「思考力、判断力、表現力等」を発揮して解くことが求められるようになった。

共通テストを実施することによって、大学入試の個性化・多様化に貢献するのではないかと期待されている。志願者数は 53 万 5,245 人で、テストを利用する大学等は過去最多の 866 校となったが、志願者数は 2020 年度センター試験より 2 万 2,454 人減少した。

また、大学入試センターによれば、公民の科目間で 20 点以上の平均点差(中間集計で「倫理」が 71.76 点、「政治・経済」が 51.32 点)が生じたため、得点調整を行うこととなった(「倫理、政治・経済」を除く)。同様のことは理科でも生じ、2 教科で得点調整をするのはこれまでのセンター試験を含めて初めてのことである。今後、加点対象となった「政治・経済」は公民換算表に基づいて、得点(素点)に 0～8 点加算されることになった。

さらに新型コロナウイルス感染症の影響で、追試験(1 月 30 日・31 日)に加えて 2 月 13 日・14 日に特例追試験(1 月 30 日及び 31 日の追試験)が実施される予定である。政府による緊急事態宣言を受け、2 月下旬に予定されている個別学力検査(個別試験)の中止を発表する大学の学部も現れた。個別試験を中止する大学の学部では、共通テストのみで合否判定をすることになる。

今回の共通テストを実施するにあたって、試行調査(プレテスト)が 2 回(2017 年・2018 年)実施され、問題内容とその結果が事前に公表されている(「政治・経済」は 2018 年のみ)。プレテストを手掛かりとして共通テストを分析してみたい。

② プレテストと共通テスト

■ 大問数と設問数

プレテストと共通テストにおける大問数および設問数は次のとおりである。変化がないように見えるが、問題冊子のページ数は、プレテスト 42 ページに対して共通テスト 34 ページとなり、8 ページほど減少したようである（問題掲載ページのみを換算）。これは、受験生が資料を読み取る時間を保証しようとしたものと推測される。しかし、2020 年度センター試験（29 ページ）と比較すると、読み込む量は大幅に増えている。また、センター試験を含め、これまで設問数と解答数が一致していたが、共通テストでは設問数が 30 に対して解答数は 31 であった。今後も解答する際の時間配分には注意が必要かもしれない。

	大問数	設問数
センター試験 2020 年 1 月実施	4 問	34
プレテスト 2018 年 11 月実施	4 問	30
共通テスト 2021 年 1 月実施	4 問	30

なお、プレテストの結果では、主に問いたい資質・能力を「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」に二分している。これは「知識・技能」のみの出題と「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を合わせた出題の 2 類型があることを意味する。大学入試センターの資料によれば、プレテストでは「知識・技能」を問う問題が 9 問、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の両方を問う問題が 21 問となっていた。共通テストについては、各問題のねらいや主に問いたい資質・能力について、現段階では明らかにされていないが、「思考力・判断力・表現力」を問う問題の割合は、おおむねプレテストと同じ程度と考えられる。

センター試験と比較して、4 択問題（4 つの選択肢から適文または誤文を 1 つ選ばせる）が若干少なくなり、適文または誤文を単純に選択するだけの問題は減少した。一方、5 つ以上の選択肢から「ア・イ・ウ」や「a・b・c」の語句や内容の組み合わせを 1 つ選ばせる「組み合わせ問題」はその分増加した。しかし、共通テストの出題形式はプレテストから変化がなかったといっていよい。

「思考力・判断力・表現力」を重視するには、身に付けた判断基準を根拠に選択させる出題がやはり有効であるといえる。そのため、適文または誤文を選択する問題は資料との関連で出題され、「組み合わせ問題」も多用されることは、今後も継続すると思われる。また、「知識」を問う問題においても、データを読み取るという「技能」を通した問題が増加している。つまり知識の質が問われているのである。なお、「技能」においては、グラフや表などの統計資料を読み取るだけでなく、与えられた情報を図式化して論理的に整理する技能も問われていた。これらは日ごろの授業で培われるものであるが、解答時間が足りなかった生徒も少なくなかったであろう。

③ 大問ごとの分析

■ 共通テスト

大問	問題のねらいと問われている学力
第1問	「望ましい社会の姿」をテーマにした現代における諸課題を、経済成長、所得分配、持続可能性の3点からアプローチさせる出題であった。主として経済事象を概念ごとに分離して考えるのではなく、相互に影響しあっていることを分析させるねらいがあったと思われる。 人間開発指数(HDI)の定義の出題があったが、これは正確な定義を暗記しているかという知識の問題というよりも、「望ましい社会の姿」にとってどのような要素が有効かという視点で考えさせる問題であった。また、経済成長率などの計算問題も、問題文を丁寧に読み込めば、すべてを計算できなくても正答にたどりつける。
第2問	民主主義の基本原則と日本国憲法についての理解を、法の意義を中心に、裁判、時事問題、政治体制などからアプローチさせる出題であった。政治事象に対する理解を、制度理解ではなく民主主義の価値から分析させるねらいがあったと思われる。 教科書や副教材に掲載されることの少ない判例・学説の出題があったが、これは紛争を解決するためには、どのような論理展開に説得力があるのかを考えさせる思考力の問題であった。政治制度にはそれを支えている理論があり、その価値を図式化して整理する技能も問われていた。
第3問	現代の経済状況に関する理解を、雇用や賃金を手掛かりとして、国家財政、銀行制度、国際経済の3点からアプローチさせる出題であった。身近な経済事象(雇用・賃金)が経済のグローバル化に関連することを通して、より広い視点で考えさせるねらいがあったと思われる。 不良債権や貸し渋りという語句を暗記するのではなく、不良債権の処理のしくみについて、貸借対照表を通して構造として理解することが問われていた。同様に、国際収支についても諸要素の計算式の暗記だけでなく、構造として経済取引を具体的に理解しているかどうか問われていた。
第4問	「日本による発展途上国への開発協力のあり方」を発表する活動を資料で示しながら、探究活動の諸段階における課題にアプローチさせる出題であった。主として国際関係のあり方を主体的に考えさせるねらいがあったと思われる。 政治分野と経済分野は独立しているのではなく、両分野に関わることを意識させる問題があった。それをふまえて、日本の援助がどのような影響を与えているかを、電力発電量、平均寿命、栄養不良の人口割合の指標から判断することが問われていた。

④ 共通テストの対策

世界はダイナミックに変化しており、客観的な理解とともにあるべき姿を構想しながら探究することが求められている。共通テストでも、多面的・多角的な考察や深い理解に基づいた解答が求められている。正解が一つの時代から、正解が複数あったり、そもそも正解があるのか容易に判断できなかったりする時代に突入した。その中で、持続可能な社会の担い手を育成することが学校教育に期待されている。

■ 教科書・副教材を活用する

教科書の記述を精読し、基本的な知識を身に付けることは、従来通り必要である。一方、思考力や判断力への対応として、グラフや表・流れ図などの資料の読み取りを補うためにも、副教材の役割がますます大きくなっている。「不良債権の処理」という難解な事柄も、実社会で使用される貸借対照表を手掛かりにして、数字を使って具体的に構造を把握すれば、深い理解が得られる。

最新のデータや理論などが掲載された副教材の助けを得ながら、教科書記述を精読すれば、知識の背景や構造が理解でき、共通テストに対応できると考えられる。

■ データを読み取り、情報を整理する技能を身に付ける

センター試験では、資料の読み取りに関する問題は比較的容易に解答することができた。しかし、「思考力・判断力・表現力」が重視されている共通テストでは、グラフが示している事実について概念や理論を踏まえて読み取ることが要求されている。さらに、与えられた複数の資料から考察することや、探究した内容を表現する手段として情報を図式化して整理する技能も求められている。また、問題文は解答するための重要な情報として、これまで以上に丁寧に把握する必要がある。

■ 新課程を視野に入れた授業実践をする

センター試験では時系列で過去の出来事を問う出題があったが、今回の共通テストでは出題がなかった。このことで、諸課題を時間という視点で考察することは不要である、と即断してはいけない。新学習指導要領が2022年度より年次進行で実施されるが、新課程が実施されれば、「地理総合」「歴史総合」「公共」が必修科目となり、その履修を前提として「政治・経済」が出題されることになる。その意味で、「政治・経済」の諸課題は、空間・時間・現代社会の構造という複数の視点で考察することは当然視されるであろう。新課程における見方・考え方を先取りして授業実践を重ねることが、共通テストの対策になると考えられる。

本分析資料のほか、他教科・他科目の分析資料(PDF)もダウンロードできます。



 第一学習社

広島本社

733-8521 広島市西区横川新町 7-14

TEL 082-234-6800